

第 13 回 盛岡地区かわまちづくり懇談会 主な意見とその後の対応

主な意見	事務局からの回答	その後の対応等	
① 平成 30 年度の事業報告について		対応者	
○前回懇談会等の意見とその後の対応について ・「サケの遡上時期には、サケマークの最中やそばを提供するなど・・」とあるが、「サケのそば」どういう意味か。	(第 13 回懇談会で事務局より回答) 第 12 回懇談会の議事録を確認し、回答する。	国交省	・第 12 回懇談会時の委員からの発言で、「サケの名前のそば定食があってもいい」という内容であった。この旨を議事録に追記・整理を行った。
② 北上川案内サイン計画について		対応者	(参照) 第 14 回懇談会資料 2 別紙 1
・ハクチョウの飛来地を入れて欲しい。川留稲荷神社のあたりから富士見橋前後で一冬過ごすことなどを紹介できるとよい。	—	国交省	・既存のマップ（もりおかマップ）にも「白鳥飛来地」として中津川 富士見橋上流に記載があったため、サインにも追記した。
・バリアフリーに限らず、普通の公衆トイレも掲載してよいのではないかと思う。	—	国交省	・河川周辺にある普通トイレの「トイレマーク」については、民間所有トイレも含めると多数有り、情報が煩雑となるため、この盤面には追記しないこととした。 ・令和元年 9 月オープンの木伏緑地のバリアフリートイレは新たに記載した。
・山賀橋の先（上流に向かって）もまだ散策路が続いているので、中津川橋ぐらいいまで表示できるとよい。	表示範囲はいろいろトライしてみて、やってみたい。	国交省	・中津川上流部の中津川橋ぐらいいまで散策が出来ることを示すため、「至 中津川橋」という言葉を盤面上の最上部脇に追記した。 ・同様に北上川下流の散策路も「至 南大橋」を追記した。 ・「散策路の距離と所要時間」も記載を変更した。
・「どんと晴れ」のロケ地の場所も紹介してもらえるとよい。	—	国交省	・ロケ地としては昨今も様々な地点が紹介されているが、テレビ放映されてから時間も経っていること、及び情報が煩雑となるため、この盤面には追記しないこととした。
・車椅子でもおられることもわかる表示として、スロープの位置も加えてもらえるとよい。	スロープの位置は反映させられるところはあると思っている。	国交省	・北上川、中津川ともに、「スロープ」の位置を追記した。
・情報量が多過ぎるので、施設名称が同じ色の文字が書かれているとわかりづらい。	情報量も多くなっているため、左下の QR コードなどを将来設け、そこで情報を得られるようにしたい。紙面の大きさなど、いろいろ兼ね合いを考えて検討したい。	国交省	・公共施設は黒色、民間施設は青色の文字で名称を記載した。
・女性の立場だと、「お買い物ができる」、「トイレに寄れる」、「お茶が飲める」、のようなマークなどがあるととてもよい。		盛岡市	・案内サインの盤面上に様々な情報を追記すると煩雑になるため、盤面に市の観光情報サイトに繋がる QR コードを設けた。
・国交省の作る情報板はある程度の公平性が必要であり、全部盛り込むのはなかなか難しいと感じている。			
・高齢の方に対しては、QR コードをかざして情報を得るというやり方は、少し不安なところがある。			
・固有名詞などに、英語表記は最小限必要だろうと思っている。			
・川の防災サイレン（ダム放流警報）を聞いて何のお知らせかわかるようにしてもらったほうがいいのか。		国交省	・盛岡市街地を流れる北上川・中津川はダム放流の影響区間にあり、この防災サイレンについては、既にダム管理者により、各川の沿川にダム放流警報看板として設置されている。
・役所のほうで基盤の地図をお示しする程度として、この委員会とは別の勉強会のような場で多くの方から意見をいただいて、情報を載せていくという方法も考えられる。	—	国交省	・第 10 回かわまち勉強会（北上川 G）（H30. 12. 27）でも同様なご意見をいただいている。その後、地元専門家へ照会をかけ、意見を反映させて、サインを作成した。
・皆さんのアイデアは貴重なご意見なので、この段階では生かせなくても、また別のところで生かせる、あるいは生かそうという動きになるとよい。	—	盛岡市	・懇談会で出された意見は、固定式の案内サインに限らず、携帯型パンフレット等を作成する際にも、活用できると考えているため、是非参考としたい。
		国交省	・既設案内サインの盤面が退色して判読出来ない状況であったため、H31 年 4 月に盤面のみ更新した。また、誘導サインを同年 3 月に夕顔瀬橋～不来方橋の各橋の直下および隣り合った橋の中間地点に設置した。 (追加修正点) 案内サイン設置にあたり、以下の追加修正をした。 ・写真付きの施設紹介文章を書き入れた。 ・サブタイトルを「川沿いを歩いて楽しむまち盛岡」に変更した。 ・「盛岡市、平成 31 年 4 月作成」を追記した。 ・今後、北上川の舟運ルート等が決定したのち、関連表記を追加して人目のつく場所への設置も行いたいと考えている。

主な意見	事務局からの回答	その後の対応等	
③ 中津川ミズベリング検討会結果について			
<ul style="list-style-type: none"> ・国交省の草刈りの機械を民間の人にも貸し出ししていただけるのであれば、我々のほうでも操作したい。 	<p>イベント等開催時の時期にうまく合わせられるのであれば、そのタイミングで河川管理者が除草するなどの協力はできると思う。 しかし、リモコン式除草機械は、一度壊れてしまうと、補償の問題等があるため、なかなか一般の方へお貸しすることが難しい。工事をやっている業者もたくさんいるので、草刈の内容に賛同いただき、ご協力いただくという可能性はあると考えている。</p>	国交省	<ul style="list-style-type: none"> ・貸与できる機械はないが、民間有志の皆さんの草刈後の集草・撤去などの支援は可能であるので、是非相談頂きたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回除草する際にも、わすれな草等水辺の貴重な植物にマーキングして、それは刈らないようになど気遣いのもとでやっている。 	-	国交省	<ul style="list-style-type: none"> ・河川敷の草刈の際は、今後も貴重な生物は残すよう対応したいので、市民のみなさんからの情報提供をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・中津川沿いで草刈をして欲しい一番の理由は、散策路が草で覆われてしまって、歩けないことである。花見のイベントをやるために草を刈ると言っているのではなく、常に中津川を皆さんに親しんでいただけるような場にしたい。 	-		
<ul style="list-style-type: none"> ・川原においていけるところはあるが、少々遠回りをしないと行けないため、もう少し階段も欲しい。 	-	国交省	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな階段については、今後の利用実態により河川管理者により簡易的なもの、あるいは恒久的な階段の設置について、検討していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・イベント時に道路地べたで飲食しているというのも何か寂しいので、いろいろなところから協力があればよりいい使い方ができるのではないかな。 	-	第12回 勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・中津川ミズベリング検討会で“水辺で花見”を実施した際は、投光器や電源、椅子、テーブルを各所から無償提供いただいた。 ・今後も河川管理者として、できることは協力していきたい。 (参照) 第14回懇談会資料7
④ 木伏緑地を中心とした水辺の賑わい創出について			
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし（議論の時間がとれず） 	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・木伏緑地がリニューアルオープンされたことから、今後も懇談会の場も含めて、いろいろ意見を頂きたい。
⑤ 舟運による賑わいの創出について			
<ul style="list-style-type: none"> ・船に乗ってきたお客さんを鉈屋町や八幡のほうにうまくつなげていくような、そんな取り組みをぜひやってみたいと思っているので、船のほうともうまく連動できればよい。 	-	国交省	<ul style="list-style-type: none"> ・舟運については、5月から9月までの5回、運航実証実験を行い、ダム協力が条件となるが、降船場候補B(明治橋上流左岸)まで運航可能であることを確認した。この結果も踏まえて、今後の船着場計画に反映させていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・船に乗ることにプラスアルファでまち歩きみたいなものの企画をしていくコースどりとなればよい 	-		
<ul style="list-style-type: none"> ・降船場候補Aというのは、船を降りた後何も面白いものがない。降りた後の楽しみが乏しい感じがするので、降船場候補Bまで、欲を言えばCまで行ってもらえると本当にありがたい。 	-		
<ul style="list-style-type: none"> ・すごく魅力ある事業だと思うのでその先の観光につなげていけるように頑張って、その先の乗降所まで持っていけるようにしたい。 	-		
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは降船場候補Aの場所と、上流の場所、乗船場候補AやBのあたりを中心に育てていただきながら、将来的に降船場BやCへ伸ばしていくということを考えていくのがよいかなと思う。 	-		
<ul style="list-style-type: none"> ・舟運が順調に起動した場合、1日にどのくらい往復すると考えているのか。 	<p>平成31年度は社会実験の回数をふやして、採算がどれぐらいだったかとれるかということも視野に入れながら往復回数などを検討していきたい。</p>	第11回 勉強会 (舟っこの会)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は5回の社会実験を実施した。 (参照) 第14回懇談会資料3 ・実験の結果、運営にはまだ課題があるため、来年度も社会実験の中で、今後の本格運航に向けて、いろいろ整理していきたい。
⑥ その他			
<ul style="list-style-type: none"> ・歩くと結構な距離があるので、河川沿いに自転車を利用した場合のことも少し考慮していただくといい。 		国交省	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の散策路は歩道として考えており、自転車の通行は安全面から想定していない。

第 11 回かわまち勉強会北上川 G (191031 開催) の結果を受けて今後の対応方針案

項目	勉強会でのご意見等	今後の対応方針もしくは現状
1. 舟運による地域活性について		
1-1 船着き場の位置	明治橋付近のスロープは下流側となっているが、舟っ子の会活動報告では、上流に着岸するという話であった。	<ul style="list-style-type: none"> 船着き場の位置は、木伏緑地前右岸側と明治橋上流左岸側での計画で設計を行っている。 ゴムボート、カヌー専用のスロープは、明治橋下流左岸の他、地域からの要望が高い木伏緑地前の右岸側にも船着場と併せて、設計を行っている。 (参照) 第 14 回懇談会資料 2 別紙 3
1-2 事業継続性	水難救助の資格等、安全面をサポートできる地元スタッフの育成が必要である。 日常的な舟運事業展開は難しく、修学旅行時期に合わせた受け入れ態勢づくりや、年 5 回程度の実施を確実にこなすことが必要である。	
1-3 旧橋の木杭	明治橋下流左岸に木杭が 2 本あり、昔の橋の跡であると思われる。	<ul style="list-style-type: none"> 地元からも旧明治橋の名残として、観光客に紹介していることを確認したので、保護までは出来ないが、工事で無くならないよう配慮していきたい。
1-4 舟の数	一艘では乗船人数に限られる。事業として行うためには、材木町の町並みに合うような和船風の舟を増やしていきたい。	
1-5 ハード整備要望	1) 舟の発着のためのスロープの整備をお願いしたい。 2) 材木町の両岸に船の係留施設が欲しい。 3) 航路上に飛び出ている岩を壊してほしい。 4) 堤防上に桜並木を作りたい。	1) 舟運用の上下架施設(坂路)の位置は、船着き場に付随する形で設計を行っている。 2) 旭橋上流左岸側の既存の階段部に簡易な係留施設が整備できるよう設計を行っている。 3) 今年度、夕顔瀬橋下流部から明治橋上流部までの区間の航行上の支障物(露岩等)の調査を行った。来年度で破碎・除去を行いたいと考えている。 4) 現況の堤防機能の強度、川の流れに対しての障害有無など総合的な判断が必要である。
2. 木伏緑地周辺の水辺利用について		
2-1 開運橋から岩手山への眺望	河川敷でのイベント時には、駐車やテントを張る位置を検討してほしい。 旭橋-開運橋について、図面通り綺麗に 2 割勾配としないか心配である。既存のヤナギを残す等して、岩手山の眺望など自然景観に配慮して進めてほしい。 木伏緑地は若い人も集っていい雰囲気であるが、商業的な面だけでなく、啄木など文化を感じる面や歴史的な面も考慮した、ただレジャーだけでなく、安らぎや憩いを感じられる川としてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 開運橋から岩手山への眺望上の障害とならないよう、エリア分けの検討を船着場の設計とあわせて行っている。 安全性を向上させるための河岸の整備に際しては、人工的な線形とならないよう配慮して進める予定である。 河川敷へ降りるための階段の新設に際しては、階段の袖部をテラス構造とし、座って川を眺め安らぎや憩いを感じるための空間整備に留意して整備を進めている。
2-2 車両の進入	開運橋下流はスロープ整備後も車をつけられるのか。 明治橋下流に車はつけられるのか。 木伏緑地前に大階段ができると子供が降りるので、車と人の安全を確保してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ゴムボートやカヌー等の利用を想定したスロープについては、開運橋上流右岸部に計画しており、現状と同様に車両の乗入れは可能である。 明治橋下流に一般の車をつけることはできるが、大型観光バスは神子田の駐車帯を利用してほしい。 車両の乗入れは可能であるが、一般車を常時通行させるかは、公道からの進入も含め、安全面の検討を行ってから判断となる。
2-3 ハード整備	開運橋下流のスロープは上流側の木伏緑地により近い位置に設置してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 検討の結果、スロープは、開運橋上流側に設置する方針とする。
2-4 イベント開催	過去に四十四田ダムから川を下って駅前のホテルで婚活イベントをやったが、そのようなイベントを木伏緑地でやりたい。もう少し、上流からあるいは下流へのつながりを水辺利用として考えてもよいと思う。	<ul style="list-style-type: none"> 今後、盛岡市、木伏緑地の運営管理者、地域の方々ミズベリングの観点で検討は可能と思われる。
2-5 中津川との連携	中津川沿いの盛岡城跡公園でも Park-PFI 事業の話がある。エリア的にまちを元気にするために北上川と中津川が一体となって進めてきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から川毎でのより深い議論を行うため、分けているが、北上川と中津川を一体的に活用する議論が必要であれば、従来のように合同で実施する機会も必要と考えている。
2-6 ミズベリング	木伏緑地の運営管理者側の発意として、北上川ミズベリング検討会の発足提案があった。(盛岡市より代理発言)	<ul style="list-style-type: none"> 木伏緑地の運営管理者側の動向を見守り、ミズベリング検討会が実施される際には、国、市も協力していきたい。

第12回かわまち勉強会中津川G（191227開催）の結果を受けて今後の対応方針案

項目	勉強会でのご意見等	今後の対応方針もしくは現状
1. サケを資源とした観光資源に向けた展開方法について		
1-1 サケのぼり	サケのぼりのデザインを改良してほしい。中の棒によって折れ曲がっているのも良くない。 欲を言えばオスとメスが欲しい。顔の形や体の模様の違い、体の大きさの差など、一般の人が川のサケを見てわからない点が伝わるものであると良い。	・国交省でのサケのぼり作成は今年度限りであるので、今後はサケのぼりを作成する主体への働きかけを検討し、実行する団体があれば、検討の場、意見まとめなどで支援していきたい。 ・市役所観光交流課側で、観光広報ツールのひとつとしてデザイン検討する。
1-2 サケ冊子	修正案では、ウラ表紙の余白のバランスが悪い。問い合わせ先はこの半分の大きさで良い。 配布実績があるなら岩手大学附属小でも同様のアンケート調査を実施して欲しかった。 p.16に子どもの声として掲載されている、水泳大会の成績は内容として不適切であると思う。また、顔写真も安全等の面から削除すべきだ。このスペースに差し替えとして、サケのぼりについて記載すると良いかもしれない。 水生生物にタナゴが含まれていないが、貴重であり載せるべきだ。 小学校だけでなく、中学校や高校にも配布すべきだ。（下橋中学校、盛岡二高、中津川で清掃活動を行っている岩手女子高） PDFデータでの配布でも良いかもしれない。中津川サケものがたりのwebページには、冊子の作り方も載っている。 学校の先生は忙しく、冊子で配る必要がある。市から印刷の費用を補填してほしい。	・上記同様、主体関係があれば支援していきたい。 ・越戸会長を通じて、岩手大学附属小にも、同様のアンケートを実施したいと考えている。 ・指摘のように、増刷時は個人の肖像の掲載は控えたい。差し替え内容は、頂いた意見の「サケのぼり」も含めて、検討したい。 ・近年の河川環境調査結果を確認し、掲載の可否を検討する。 ・印刷には予算確保も必要となるため、国交省と盛岡市でどの範囲の中学校・高校まで配布するか検討する。
1-3 サケリーフレット	QRコードを読み込むとサイトのセキュリティについて警告メッセージが表示される。動画を見ようとすると、ダウンロードしますか？と表示される。安心して閲覧できるようにすべきだ。 お金をかけないPRといえばSNS(Facebook等)の活用である。“現時点での産卵の様子”を動画でアップしたり、観光客向けであれば県観光協会のwebページにバナーを貼ってもらったりすると良い。	・(httpにsを追加し、「https://・・・」にすると安全になるが、岩手河国事務所のホームページ変更に関わってくる) ・盛岡市のフェイスブックで、サケの遡上に関する情報を掲載する。
1-4 その他サケについて	本町振興会作成のサケ遡上ポスターを、市観光課から各商店街に掲示するよう広めてほしい。 今年はサケの遡上が少ないため、サケ放流会用の稚魚を例年とは異なるところから調達しなければならなかった。 浅岸橋付近はサケの産卵に適していたが、最近石が大きい。産卵床として良い場所がなくなること心配している。重機を一度入れるだけでもだいぶ違うと思う。 浅岸橋上流は岸から川に入ることが難しくなっている。帯工などを設けてほしい。草刈りでも川まで1mほど葦を刈られないため、サケをよく見ることができない。	・盛岡市観光交流課として、本町振興会作成のサケ遡上ポスターの取扱方針を示す ・今後、一度勉強会の皆さんと一緒に現地を確認し、対応も含めて検討したい。
2. 今後実現させたいミズベリングの取組みについて		
2-1 中津川映画祭(仮称)	映画祭の実施について、物事の企画は最初が肝心であるから、頑張してほしい。 バスセンター跡(SIDE-B)で肴町商店街振興組合青年部がまちなかでキャンプを実施している。映画祭のような楽しいことについても、できることがあれば協力したい。	・中津川ミズベリング検討会の今後の検討結果を、勉強会メンバーにも周知し、映画祭への協力・支援をお願いしたい。
2-2 河川敷の利用環境整備	鴨川のように中津川でもコンクリートの中洲や飛び石を設置したい。中津川は子どもも近づくことができる。近くを通ってみようというアットホームな川になると思う。盛岡の魅力を向上するためには、盛岡市民が楽しめるように整備して、そこへ観光客が寄ってくるという形が良い。 岩手公園のPark-PFIについて、協議会としては現行案に賛成することになった。八幡宮の鳥居から真っ直ぐ城跡公園の方へ来た時に、吊り橋で川を渡れるようにしたい。 草刈りは、市民が自らやらなければ意味がないと考えている。川沿いの町内から2名ずつ参加して草刈りをする、草刈り機を持っている人にガソリン代は出すなどといったやり方が考えられる。 声をかけてもらえれば、八幡町にも草刈り機を持っている人はいるので参加できると思う。 4~10月に月1回は実施したい。現在は、自分で年3~4回呼び掛けて実施している。	・飛び石については、河川特性(流水の阻害、土砂堆積、平常時水位状況など)を踏まえて検討したい。 ・国での吊り橋設置は出来ないが、市或いは県で整備を行う場合は、河川協議の指導など支援していきたい。 ・中津川沿川の地域の方々が自主的に行う場合には、集草・除去などの後方支援を行ってほしい。また、有志団体が「河川協力団体」として、活動することとなれば、草刈作業の委託などの補助制度活用も可能である。